平成30年に特に注意を要する病害虫

てんさいの褐斑病

DMI剤およびカスガマイシン剤に対する耐性菌が全道広く発生！
連作を避け、抵抗性“強”の品種を作付けするなどの耕種的対策と、マンゼブ剤と銅剤を基幹薬剤とした防除で発生を抑えましょう。

りんごの黒星病

黒星病（葉の病斑）

黒星病（果実の病斑）

近年りんごの黒星病が多発傾向です。散布間隔が開きすぎないように気をつけながら、希釈濃度、散布水量を守って適切な防除を実施しましょう。

あぶらな科野菜のコナガ

コナガ（幼虫）

コナガ（成虫）

ジアミド系薬剤を多用すると、抵抗性個体の割合が高まります。
連用せず他系統剤とのローテーション散布を行い、散布後は防除効果を確認する、所定の処理量、濃度を遵守するといった基本対策を守りましょう。

りんごの腐らん病

腐らん病（胴ふらん）

りんごの腐らん病にり病した部位は年間を通して伝染源となります。早期発見に努め、り病部を削り取り園外で処分するといった基本対策を確実に実施しましょう。

新たに発生が確認された病害虫

えんどうの萎凋病

下葉から黄化する症状が発生しました。発病株の維管束には褐変症状が見られます。汚染土壌の移動を防止すること、健全種子を使用することが重要です。

なたねのアオチビケシキスイ

体長2～3ミリほどの小型で扁平、青い光沢のある甲虫が多数寄生し、葉、花、蕾が食害されました。蕾内では3～4ミリほどのハムシ型幼虫が内部を食害していました。なたね以外のあぶらな科作物においても注意が必要です。

ねぎの白絹病

ねぎの外葉が枯死する症状が発生しました。土壌表面には白色の菌糸と直径約1mmの菌核が見られます。病原菌は多犯性です。

注意を要する病害虫の詳細は、北海道病害虫防除所のホームページでご確認ください

連絡先 Contact
中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
０１２３－８９－２００１
Central-agri@hro.or.jp